

【身延山唯一の女子寮「なんてん寮」の取り組み】



身延山門前商店街の一角に「なんてん寮」と表札を掲げた建物がある。

かつて料理屋であった建物を改修し構えられたなんてん寮は、身延山久遠寺において、令和2（2020）年3月から創設された女子寮である。令和5年2月現在、2名の在院生（大学生）を受け入れている。

なんてん寮では、僧侶を志すため身延山高校及び身延山大学に通学しながら入寮して給仕する在院生や、教師・沙弥ともに入寮して給仕を行うことができる半年間の僧堂実習生（4月～、10月～の2期間）など、男子寮と同様に、様々な段階での女子寮生の受け入れを行っている。

例えば、食費・寮費等は身延山が負担し、在院生は授業料相当額を全額身延山が負担したり、コロナ禍の対応で寮

生の部屋は個室（人数が多くなれば変わることもある）であったり、洗濯乾燥機が設置されているなど、手厚く受け入れる体制が整えられている。

他の寮に比べ、久遠寺や身延山大学から離れた位置にあるため、久遠寺や大学への移動なども男子寮と異なる環境でありながらも、男子寮と変わらない日課をこなしている。

「開設から年月が経っておらず、寮生はもちろん指導側も手探りではあるが、自分たちで作り上げていくというやり甲斐がある。認知度が低いのが課題だが、短期入寮（体験）など様々な需要に柔軟に対応して寮生の受け入れを行いたい」と、寮監の延本妙泉師は語る。

男子寮生であれば、例えば先輩の寮生から木鉦のような様々な技術などを教わることが容易だが、なんてん寮ではまだ人数が少ないためにそうしたことも困難な現状がある。そのため、近隣より木鉦などが得意なお上人を招いて習うなど、男子寮生にも引けをとらないよう、あるいは今後、信行道場に入場しても困らないよう、様々な形で特別なサポートを行っているとのことである。

今では、身延山久遠寺の法要にはなんてん寮からも出仕しており、なんてん寮の女子寮生が朝勤において声明の発音を行っているなど、着実にその成果が結実し始めている。

なんてん寮の取り組みが、より周知され、発展することを願いたい。

